

嘉手納漁業組合の皆さんの施設見学

2011年3月30日

嘉手納漁業組合の組合員とご家族の皆さん & 嘉手納町役場の職員の方、
計27名が来所・見学されました。



みんなで記念撮影。



**ヒメジャコの親貝や稚貝を観察。
ヒメジャコ採りの漁業者の方もおられました。**

**「ヒメジャコは、どんな風にして岩を削って広げるのか？」
との質問がありました。**

**案内人は、「貝殻を動かして物理的に岩を削りつつ、
なおかつ、酸などの化学物質を分泌して岩を溶かすという、
二つの方法で岩を広げて入っていく」と言われています。」と答えました。
後で確認したところ、それで間違っていないようでした。安心！**



**ナンノクロロプシスの培養水槽で、
魚の餌の餌です。
この水槽では、1mlに東京都の人口の2倍の数(約2,500万細胞/ml)
のナンノクロロプシスがいます。**



マダイや大きなミーバイなどなどをみつけて、思わず、海人魂が騒ぐ



魚類種苗生産水槽で。

「水槽の底の渦巻きのような白黒線は???'との質問。
底掃除ロボットの掃除コースです。

底掃除ロボットの实物(写真右)を確認して、納得顔。



S型ワムシ培養水槽で。
小さなワムシ(0.2mmほど)を肉眼で観察。
年齢によっては無理な方もおられます。
それは、仕方がないですね。
案内人も同様ですから・・・。



ヤイトハタ親魚水槽で(左)。



シラヒゲウニの稚ウニの水槽(左)とその餌のオゴノリの培養水槽(右)で、
毎回話題になりますが、「水槽の中の葉っぱはなんですか?」の質問。

餌不足を補うために海の動物のウニに陸上植物を与えています。

「へえ～、畑もいるね。ハルサーしながら、ウニの子育てね!」



ウニの中間育成水槽(左)と
チョウセンサザエの中間育成水槽(右)で、

「一人前になるのに、時間がかかるねえ。」

「そうですね。でも、人間は一人前になるのに、
20年以上もかかるでしょ。
いや、中にはもっとかかる人もいますか」

1時間30分余にわたる見学、お疲れ様でした。

当センターの業務をご理解頂けたでしょうか。

最後に、益元組合長が資源保護の大切さについて述べられ、
当センターの地道な取り組みをねぎらって頂きました。

ありがとうございました。

最後の落

次の目的地に向かおうとバスに乗り込む皆さん。
でも、バスはなかなか動きません。
エンジントラブル！

組合員のある方、曰く、「しばらく、ほお～て置いたら直るさ。」

で、しばらくして、バスは出発。

ムウ～～、流石だ！！